

巨大地震

への備えは十分ですか？

地震保険

をぜひご検討ください！



東日本大震災からわずか5年後の2016年、熊本県や鳥取県を震源とする大地震により、多くの財産が失われました。地震保険は、そんな「いつ、どこで起きるか分からない地震等」への備えとして、地震後のお客様の生活を支える保険です。ぜひこの機会にご加入をご検討ください。

地震発生確率

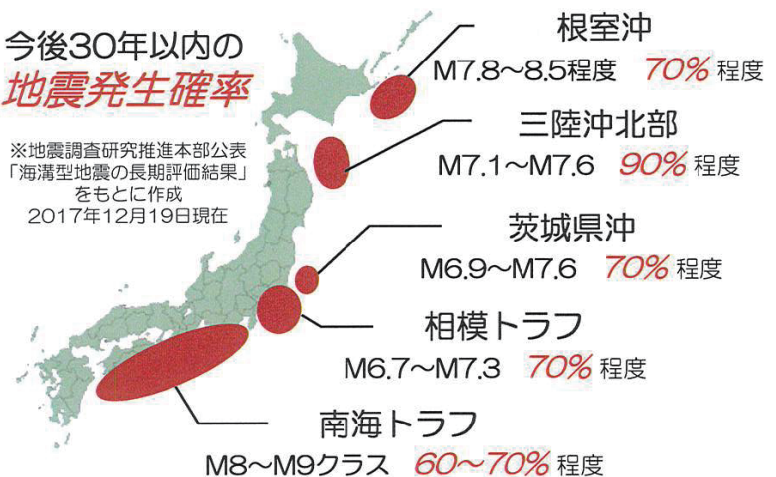
東日本大震災 (M9.0) は、
当時 30 年以内の発生確率
が **10% ~ 20%** でした。

しかし…

突如、私たちの生活を
襲ってきました。

今後30年以内の 地震発生確率

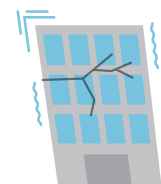
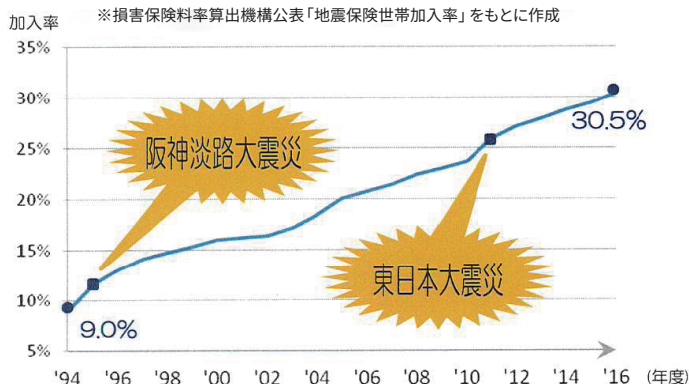
※地震調査研究推進本部公表
「海溝型地震の長期評価結果」
をもとに作成
2017年12月19日現在



20年で加入率は **約 3 倍**

地震保険の世帯加入率推移

※損害保険料率算出機構公表「地震保険世帯加入率」をもとに作成



地震に備える世帯は、年々増えてい
ます。

阪神淡路大震災当時に比べ、現在
では **約 3 倍の世帯** が地震保険
に加入しています。

建物が倒壊しなくても地震保険金は受け取ることができます。

(倒壊以外に、建物の沈下や傾斜等も損害認定されます)

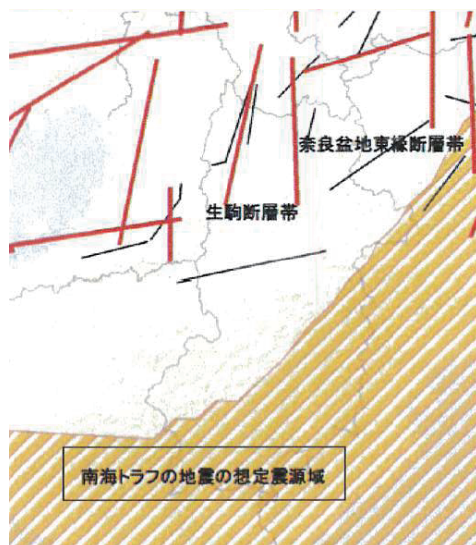
- 堅牢なマンションであっても、地盤の影響等により傾斜・沈下したり、また、柱・はり・壁にひび割れや剥落等の損害が発生したりするケースが多くあります。
- 地震保険では、傾斜角度や沈下の深さ、また柱・はり・壁等^(※)のひび割れや剥落等の程度に応じて損害認定を行い、全損、大半損、小半損、または一部損となった場合に保険金をお支払いします。

(損害の程度が一部損に至らない場合は、お支払いの対象外となります)

(※) マンションの構造によって損害認定時の着目点は異なります。



奈良県周辺の主な断層位置



※2016 年度版確率論的地震動予測地図データ (J-SHIS 地震ハザードステーション) を基に作成

西暦	地域または地震名称	マグニチュード	主な地震被害
1185年	近江・山城・大和	7.4	寺社家屋倒壊破損多く、死者多数。
1361年	畿内・土佐・阿波	約8.2~8.5	南海トラフ沿いの巨大地震。寺社などの被害。
1596年	畿内(慶長伏見地震)	約7.5	寺社倒壊などの被害。
1707年	宝永地震	8.6	南海トラフ沿いの巨大地震。家屋全壊約280棟。
1854年	伊賀・伊勢・大和および隣国(伊賀上野地震)	約7.3	奈良で死者280人、全壊家屋700~800棟。周辺に被害あり。
1891年	濃尾地震	8.0	死者1人、負傷者2人、家屋全壊16棟。
1899年	紀伊半島南東部(紀伊大和地震)	7.0	南部を中心に被害。家屋全壊あり。
1944年	東南海地震	7.9	死者3人、負傷者17人、家屋全壊89棟。
1946年	南海地震	8.0	負傷者13人、家屋全壊37棟。
1952年	吉野地震	6.7	死者3人、負傷者6人。
2004年	紀伊半島南東沖	7.4	負傷者3人。

お見積りいたします!!まずは保険証券をご準備ください。

【お問合せはこちら】 保険課

TEL: 0742-35-5252

株式会社 丸和不動産 奈良市西大寺本町1番6号
オーナー様の資産に関するご相談はお気軽にお電話ください。
定休日: 水曜日 営業時間: 9:30~18:00